

(仮称) 門真市立生涯学習複合施設整備に係る 市民ワークショップ

報告書



**令和3年（2021年）
9月**

門真市

<目次>

1. ワークショップの実施計画概要

(1) 開催目的	2
(2) 開催概要	2
(3) プログラム内容	3
(4) ワークショップの手法	4
(5) ワークショップの流れ	5

2. ワークショップの開催結果

(1) 結果概要	8
(2) ワークショップにおけるアイデア・意見	13

3. 考察

(1) ワークショップについて	18
(2) ワークショップで出た意見について	18

【付録】模造紙写真	21
------------------	-------	----

【付録】ふせん紙写真	27
-------------------	-------	----

1. ワークショップの概要

(1) 開催目的

本業務は、(仮称) 門真市立生涯学習複合施設の整備に向け、施設の賑わい創出やユーザビリティ向上のため、様々な立場の方々の意見を集約し、施設価値を高めるとともに、施設でのサービス内容等を検討するための基礎資料として整理するものである。市民同士の意見交換を通して、相互理解を促進するとともに、施設計画の概要やスケジュールを周知することも目的とする。また、未来を担う世代にも参加いただき、地域における社会課題の発見機会の提供も目的とする。

(2) 開催概要

- 日時 : 令和3年6月27日(日) 10:00~12:30
- 場所 : 門真市民文化会館ルミエールホール 2階 レセプションホール
- 対象者 : ・門真市に在住・在勤・在学する者
・小学生以上 (小学生の方が参加される場合は、保護者の同伴参加が必要)
- 募集定員 : 30~40名程度
- 告知方法 : 門真市広報5月号、門真市ホームページ、門真市Twitter、チラシ、ポスター
- 申込方法 : 門真市ホームページ申込フォーム、電話、窓口
- 申込期間 : 令和3年4月23日(金) ~ 5月28日(金) 先着順
- 参加者数 : 37名

年齢	人数
10歳未満	3名
10代~20代	4名
30代~40代	11名
50代~60代	11名
70代以上	8名
合計	37名

《参考》参加者のカテゴリー

小学生6名、障がい者及びその関係者等11名(聴覚障がいをお持ちの方1名、視覚障がいをお持ちの方5名、付き添い者が3名、障がい者関係サークル等活動者2名)、ボランティア・サークル活動者10名、親子参加4組12名
※複数のカテゴリーに該当する方は重複してカウントしています。

(3) プログラム内容

<テーマ>

少し未来の門真のみんなにとって、豊かな文化と学びの拠点とは？

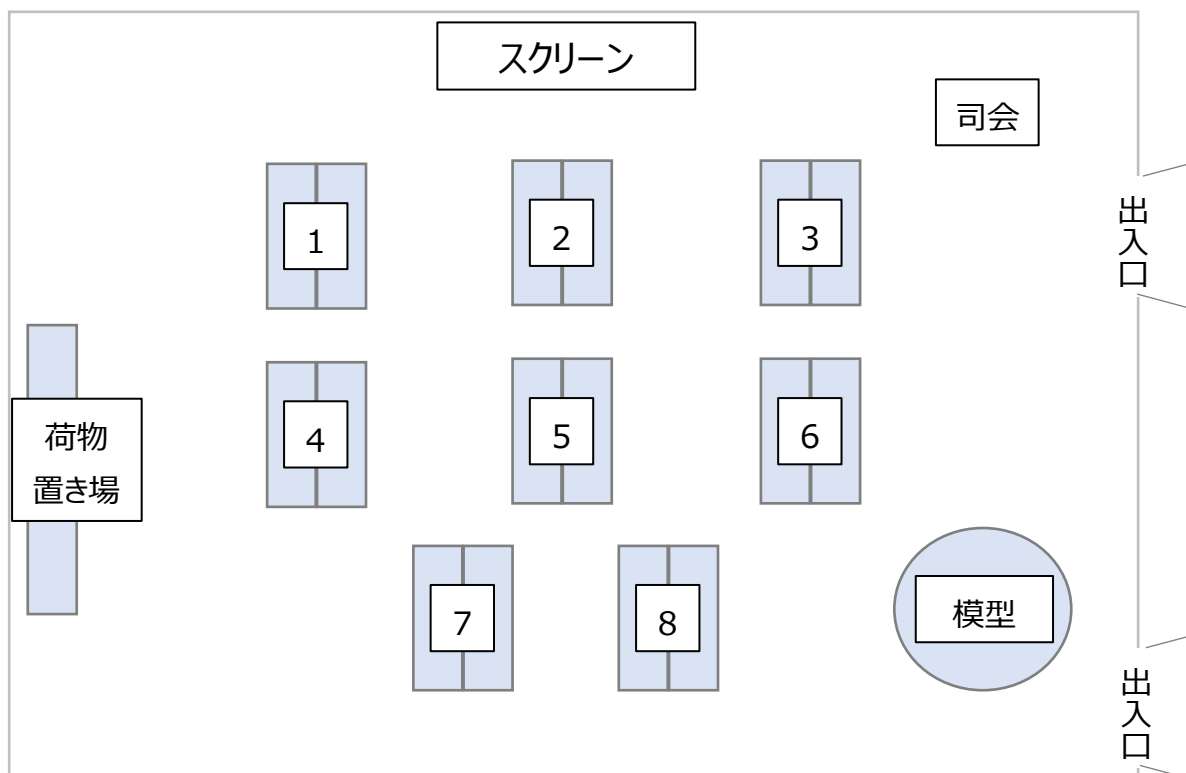
<内容>

1. 開会
2. 門真市長挨拶
3. 新施設の計画及び施設整備に係る市民アンケート結果説明
4. ワークショップ（ワールドカフェ方式）
5. 振り返り
6. 閉会

<開催体制>

聴覚障がいをお持ちの方1名をサポートできるよう手話通訳士を配置。付き添いのない視覚障がい者2名には、スタッフが解説や代筆のためのサポートを実施。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、受付時の手指消毒と検温、入口扉の常開、筆記具の個人使用制限、一定の距離を確保した席配置など、各種対策を実施した。1グループあたり4～6人程度、8グループに分けて実施。メンバー構成は、年齢や性別、所属団体等が偏らないよう受付時に座席を指定。会場レイアウトは下図参照。



(4) ワークショップの手法

今回のワークショップは、様々な立場の市民から、主に施設設計に反映するアイデアを出していただくこと、また、市民同士の相互理解の促進を目的としている。そのため、アイデア発信でき、かつ対話できるワークショップであるワールドカフェを採用した。対話の中から生まれる様々なアイデアの中から、参加者自身が共感したものを選出していた、それらをカテゴリにまとめた。

<事前準備>


参加者がスムーズにワークショップに参加できるよう、ワークショップ開催日の1週間ほど前に、新施設の概要、市民アンケート報告書（概要版）、ワークショップのプログラム内容が記載された資料を配布した。新施設のイメージや自身以外の市民の意見、ワークショップの流れなどを事前に確認していただいた。

事前配布資料

開催の目的は何か？

古川橋駅前に建設予定の図書館と文化会館の機能を併せ持った生涯学習複合施設を、市民目線で、施設をより使い勝手の良いものにするために開催します。

施設は令和7年度(2025年度)開館予定です。



イメージ図 5

Copyright (C) COCC Co., Ltd. All

市民アンケート報告書（概要版）

(仮称) 門真市立生涯学習複合施設整備に係るアンケート調査 報告書【概要版】

1 調査目的・実施内容

(1) 調査目的
(仮称) 門真市立生涯学習複合施設の整備に伴い、施設の魅力を抽出し「ワールドカフェ」の向上のため、幅広い市民の意見を取り入れ、施設整備を高めると共に、施設でのサービス内容等を検討するために実施したものです。

(2) 実施内容
○調査対象：(仮称)一帯向け
 -調査対象： 高津地区以上の門真市在住者
 -調査方法： インターネット調査 + 随時紙郵送調査
 -調査期間： 令和7年3月5日～21日 前2週間の有償期間
 -有効回答数： 708件（インターネット調査600件 + 郵送調査108件）

○調査【2】(児童・生徒向け)
 -調査対象： 門真市立小中学校に通う小学5年生及び中学2年生
 -調査方法： インターネット調査
 -調査期間： 令和7年3月17日～28日
 -有効回答数： 85件

3 新施設の建設計画認知

■市民一般での認知度は46.6%、児童・生徒では38.9%

調査【1】
(n=708)

知らない 16.5%
 知っている 83.5%

調査【2】
(n=85)

知らない 16.5%
 知っている 83.5%

2 回答者属性

(1) 性別
調査【1】 (n=708) 調査【2】 (n=85)

性別	調査【1】 (n=708)	調査【2】 (n=85)
女性	65.1%	55.3%
男性	33.2%	40.0%
その他	1.7%	4.7%

(2) 年齢・学年
調査【1】 (n=708) 調査【2】 (n=85)

年齢・学年	調査【1】 (n=708)	調査【2】 (n=85)
20代	13.1%	6.4%
30代	23.2%	6.1%
40代	25.4%	6.1%
50代	11.0%	6.1%
60代	2.8%	6.1%
70代	1.1%	6.1%
その他	1.1%	6.1%

(3) 市内居住エリア
調査【1】 (n=708) 調査【2】 (n=85)

居住エリア	調査【1】 (n=708)	調査【2】 (n=85)
北東エリア	31.1%	25.9%
北西エリア	27.1%	44.7%
南東エリア	12.6%	11.8%
南西エリア	13.6%	7.1%
その他	1.4%	3.1%

4 利用時の交通手段

■利用する場合の交通手段は「自転車」が最多、その他の交通手段と比較して、圧倒的に高い

調査【1】
(n=708)

自転車 61.9%
 徒歩 24.4%
 車 9.7%
 バイク 4.8%
 タクシー 2.0%
 その他 0.6%
 不明 4.4%

調査【2】
(n=85)

自転車 80.0%
 徒歩 31.8%
 車 5.9%
 バイク 5.9%
 タクシー 0.0%
 その他 0.0%
 不明 3.5%

(5) ワークショップの流れ

アイスブレイク

全員で簡単なゲームを行い、参加者の緊張をほぐすことでコミュニケーションを円滑にする。

自己紹介

テーブル内で参加者同士の理解を深めコミュニケーションを円滑にする。

ワールドカフェ：①対話（10～12分）

テーマに対して、グループメンバーで対話しながら、模造紙に自由にアイデアを文字や絵で描きこむ。

ワールドカフェ：②移動

グループから1名（ホスト）を残し、他の人は、テーブルを移動し席替えをする。

ワールドカフェ：③テーブルで共有（3～5分）

移動後、ホスト役の方は新しいメンバーに前回の対話の共有を行う。

ワールドカフェ：④全体で共有（シェアバザール）

出てきたアイデアを整理する。

参加者は立って各テーブルを回り、模造紙に書かれたアイデアの中から自身が共感したものをふせん紙1枚に1つずつ書いていく(何枚でも可)。壁にカテゴリ分けされた白紙の模造紙が用意されているので、内容があてはまると思われるカテゴリエリアにふせん紙を各自貼る。

カテゴリは、「イメージ・雰囲気」「施設全体の機能や設備」「図書館」「文化会館（イベント・活動）」「キッズスペース・サービス」「ユニバーサル・バリアフリー」の6種類。

クールダウン

元の席に戻り、最初に自己紹介したグループメンバー同士でワークショップの感想を共有して終了。

①～③を3ラウンド繰り返す

2. ワークショップの開催結果

(1) 結果概要

1. 門真市長挨拶

門真市 宮本一孝市長の挨拶からスタート。古川橋駅前のまちづくりが門真市の未来を作っていくプロジェクトであること、その中心的な事業として、生涯学習複合施設が位置付けられていることなどを参加者に説明。

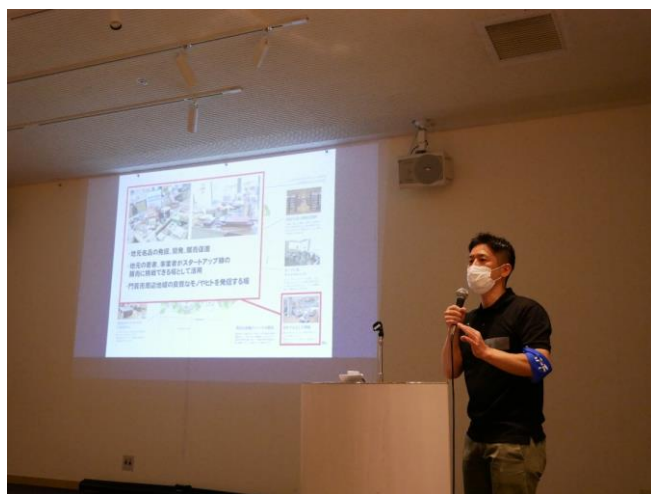
その他、本施設の運営事業者として、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社(以下、CCC)が選定されたこと、また運営事業者としてのノウハウを活かしながら事業を進めていることを説明。



2. 新施設の計画及び施設整備に係る市民アンケート結果説明

続いて、施設運営事業者のCCCより、CCCの事業紹介と門真市における本施設のコンセプト、レイアウトプランを説明。本ワークショップでの市民の意見を踏まえ、さらにプランを磨き上げていきたいというワークショップの趣旨を説明した。

あわせて令和3年3月に実施した市民アンケートの結果を説明し、参加者に共有した。



3.ワークショップ：みんなで自己紹介

約30分ほどの説明を終えて、いよいよワークショップに入っていく。思考の切り替えのため、じゃんけんゲームをし、その後、グループごとに「他己紹介」のワークを実施した。

「他己紹介」とは、2人1組などペアになって、相手のことをインタビューし、他のメンバーに相手のことを紹介するというもの。今回のお題は、「ワークショップに参加した理由」「今の気持ちを色で例えると？」とし、お互いでインタビューしていただいた。

様々なバックグラウンドをお持ちで、多様な方々にお集まりいただいていることもあり、最初から話が盛り上がった。お互いのことを少し知り合って、対話の準備ができた。



4.ワークショップ：ラウンド1

今回、「ワールドカフェ」という対話形式でワークショップを実施した。「少し未来の門真のみんなにとって、豊かな文化と学びの拠点とは？」というテーマに対して、グループごとに自由に対話して、メモや絵を手元の模造紙に書いていくという方法である。

開始前にホスト（進行役）を決め、各グループ、ホストによる進行で対話が始まった。自分の意見を模造紙に書き出すグループもあれば、先に話を始め、その会話内容をメモするグループも。子どもたちが欲しいものを絵にかいたり、ある人は事前にメモしてきたことを書き写したりなど、進め方は様々だった。

なお、視覚障がいをお持ちの方の意見は、付き添いの方またはスタッフが代筆し、聴覚障がいをお持ちの方の意見は、手話通訳士によりグループメンバーに共有された。

12分間あったラウンド1終了後、ホスト以外の方は席を移動した。



5.ワークショップ：ラウンド2-3

席替え後、新しいグループメンバーによる挨拶。その後、ホストから前回のグループで出たアイデアや意見を共有し、ラウンド2が始まる。ラウンド1よりも緊張が解けてきたのか、会話が弾んでいた。ラウンド2を終え、再度席替えを行い、最終のラウンド3を実施した。終盤は、グループ内だけでなく、市長やCCCスタッフから疑問の投げかけなどもあった。印象深かったのは、障がいをお持ちの方に寄り添うように、他の参加者が耳を傾けて聞いていた点である。書き込みされた模造紙の内容は、巻末に付録として添付する。





6.ワークショップ：シェアバザール

休憩をはさみ、各グループで出たアイデアや意見を整理する時間として、自由に他の席で出た意見を見に行く時間を設定した。配布されたふせん紙に、他の人のアイデアで共感したものをメモし、壁に貼られたカテゴリ別の模造紙に貼り付けていただいた。カテゴリが不明なものは、スタッフがサポートしながら貼り付けを行った。

全て貼り終わられた後、ファシリテーターがカテゴリごとに出たアイデアや意見、多くあがっている特徴的な内容を全体に共有した。



7.ワークショップ : クールダウン

最初のグループに戻り、グループメンバー同士でワークショップの感想を共有して終了。
その後、全員で記念写真を撮り、本ワークショップのアンケートに回答いただき、終了した。



(2) ワークショップにおけるアイデア・意見（ふせん紙に書かれた内容）

出てきたアイデアや意見をカテゴリごとに分けて整理した。なお、カテゴリ分けについては、ワークショップ終了後、運営事務局で再整理したものを記載する。同内容で複数あるもの、正確な意味が読み取れないものも原文のまま記載している。

①イメージ・雰囲気

内容	詳細
イメージ	誰にでも優しいところ
イメージ	子供が主役になる施設
イメージ	門真の子供が自信を持てるようにしたい
イメージ	気楽に入りやすい≠役所
素材	木をふんだんに使った建物
緑の空間	エントランス緑の空間
緑の空間	緑の空間が欲しい(鳥の害が心配)
緑の空間	イオン→広場→古川橋駅→生涯学習複合施設まで繋がるグリーンロード
野外レイアウト	緑の中でヨガしたい

②図書館

内容	詳細
運営体制	読書好きの子供たちが感想や本について語れる場とアドバイザー
運営体制	読書好きの子供たちが感想や本について語れる場とアドバイザー
音対策	図書室を防音型に
学習スペース	小グループの自習
図書サービス	大学図書館からの取り寄せ
図書サービス	図書館で図鑑で調べられるように。
配架方法	おすすめの本を学年別にして分けて提案してほしい
緑の空間	緑の広場で虫取り→図書館の図鑑でなぜ？
野外レイアウト	広場で本が読める
野外レイアウト	緑の広場で読書、読み聞かせ
イベント	本を読んだ後の意見感想共有の場
学習スペース	自習室 静かな居心地のいい空間、部屋（教室）
スペース	ボランティアのスキルアップの部屋、会議室、練習室、グッズ収納室など
スペース	ボランティアのスキル上げるための部屋
スペース	防音を希望
選書	良書を置いて欲しい

③文化会館

内容	詳細
市民活動	健康に生涯を過ごすためのワークショップ
運営体制	イベント各団体に持ち回して欲しい
起業講座	経学学校
起業講座	起業の塾、起業のノウハウを学べる
起業講座	起業塾セミナー（若者支援）
起業講座	起業ノウハウ学ぶ塾
起業支援	副業支援
起業支援	副業支援コーナー
起業支援	副業支援
就業支援	職業体験（就職活動前に）
スペース	昆虫が見れる部屋
スペース	展示室がみたい
スペース	クラブ活動発表の場（吹奏楽部など）
スペース	給湯室
テナント	テレビ局のサテライトスタジオ、ケーブルTV、動画

④キッズスペース・サービス

内容	詳細
イベント	子供と参加できる学べるイベント
イベント	子ども職場体験（キッズニア）
屋上庭園	屋上体験 ふれあい 動物 虫
キッズサービス	フードバンク、子ども食堂
キッズサービス	小中高生の夏休み、放課後の居場所
キッズサービス	子ども保護児童館
キッチン	子どもとCookingできる部屋
キッチン	子どもが使える調理室
児童館	18才までの学生を預かることができる児童館
児童館	子ども食堂
塾	塾（自由室）
塾	じゅくがあればよい
塾	安くて通えるじゅく
全体レイアウト	子どもフロアはやっぱ1階が良い。防災面。
展示	魚など化石がみたい
避難	防災、子どもが逃げやすいように
避難	4F子ども非常時どうする？
避難	4Fが子ども施設だと防災時は？
避難	4Fからの避難方法、安心、安全
備品	子どもミニシアター
備品	うさぎちゃん
遊具	大きな滑り台が欲しい
遊具	すべり台
遊具	屋上にブランコがあるといい
ルール	子供だけ利用
レイアウト	子どもスペースは1階

⑤施設全体の機能・設備

内容	詳細
アーケード	駅からのアーケード
アーケード	駅からのアーケード
イベント	天体観測スペース
イベント	屋上星空観察会
イベント	天文台
イベント	仕事の内容が分かる、仕事体験ができる場所
運営体制	社会福祉協議会のボランティアを
屋上庭園	屋上緑化
屋上庭園	屋上に借用の畑
水槽・池	水族館が欲しい
水槽・池	魚が見たい
スペース	工作室
スペース	ふれあい広場
スペース	印刷作業所
スペース	博物館があると良い
スペース	制作できるスペース
スペース	工作室
スペース	ボランティアルーム
駐車場	地下駐車場
駐車場	駐車場やっぱりいると思う
駐輪場	地下駐輪場
駐輪場	駐輪場→地下
眺望	電車がみたい
電気設備	非常用電源
場所貸しサービス	結婚式場、幸福町、ライブラリーウェディング
備蓄	災害時の避難場所や食糧などを確保してほしい
避難	避難用の滑り台
避難	避難経路
避難	すべり台から逃げる
避難	エレベーターで閉じ込められたらどうするか？
備品	ピアノの設置(誰でも弾けて自然にコンサート)
備品	街角ピアノ設置
有事対応	災害時ボランティアセンター
有事対応	災害時ボランティアセンターの設置

⑥バリアフリー

内容	詳細
運営体制	サポートメンバーの充実
エスカレーター	エスカレーター乗り口、降り口光るように
エレベーター	エレベーター（ドアに透明）画面を入れて欲しい（防犯）
エレベーター	透明のエレベーター
エレベーター	エレベーター防犯機能
音声ガイドシステム	音声案内、ガイドをつけてください
音声ガイドシステム	音声を文字や絵にして表すモニター
音声ガイドシステム	音声案内
音声ガイドシステム	音声案内
音声ガイドシステム	音声案内を自分でON OFF
学習スペース	自習室、障がい者が気兼ねなく利用できる
啓蒙	見た目ではわからない障害のある人への理解
サイン	案内板床に
サイン	館内案内表示
サイン	見て聞いてわかりやすい案内
市民活動	イベント障がい者も講師に →支援して開催？
スペース	対面朗読のための部屋
蔵書	点字図書の充実
蔵書	触れる絵本、しかけ絵本（視覚障害者用）充実
蔵書	障がい者関連の本を増やしてほしい
蔵書	点字図書
蔵書	手話の本を取り入れて欲しい
蔵書	点字図書
電子掲示板	音声による表示版（文字）子どもやろうや高齢者のため
配色	階段のカラーゼびして欲しい
配色	カラフル階段
配色	トイレの入り口がわかりにくいので、女性は赤にして欲しい
バリアフリー	バリアフリー
バリアフリー	バリアフリー、ユニバーサルデザイン
バリアフリー	バリアフリーの最先端モデル
バリアフリー	視力→対面朗読、耳→防音装置
遊具	車イスブランコ
遊具	車イスブランコ

3. 考察

(1) ワークショップについて

■ 1. 市民同士の相互理解の場

本ワークショップは、子ども6名、障がいをお持ちの方6名を含み、年齢層も幅広い方が参加され、市民がお互いの意見を共有し合う、対話形式で行われた。「いろいろな人と話し合ってきた」「いろいろ意見があり、感心した」などの声に参加者からあった。参加者それぞれが、他者との対話を通して、新たな視点に気づく機会になったのではないかと考えられる。

(2) ワークショップで出た意見について

■ 1. 木や緑で囲まれたイメージ

「イメージや雰囲気」のカテゴリでは、木の素材を使ったものや緑のある空間を求める意見が多かった。なお、別途取ったアンケート調査の結果でも、「緑溢れる自然豊かな景観」を求めており、ワークショップの意見とも合致している。古川橋駅周辺に緑の空間が少ないことから、緑の空間を作ることによる癒しや安らぎの印象が求められていると考えられる。複合施設だけでなく、エリア全体として、まちづくり協議会や周辺事業者と景観イメージについて連携して対応していくことが求められる。

■ 2. 有事の際の対応方法

「有事の際どうするか？」という視点の意見が出された。特に「4階にキッズスペースがあることで、子どもたちが逃げ遅れるのではないか？」や「町の中心なので、災害ボランティアセンターを設置しては？」などが多かった。複合施設が災害時にどんな役割を担うかについては、周辺の公共施設との役割分担をし、設定していく必要があると考えられる。避難については、まず災害に耐えうる建物となっていることが前提として必要である。特に施設周辺は建物密集のエリアでもあり、地震ではむやみに外へ避難するよりも建物内にいるほうが安全な場合もある。そのうえで、どんな利用者でも避難しやすい設計にしておく必要がある。

■ 3. 様々な読書、学習環境の提供

図書館に関わる意見では、「自然の中で読書」や「外で読みきかせ」、「防音の部屋」「小グループでの自習」など、様々な環境を求める声があった。それぞれの世代やニーズに合った、様々な読書、学習スペースの設置が求められる。

■ 4. 本だけでなく、そこからの関係性

例えば「緑の広場で見つけた虫を図鑑で調べたい」や「自分の読んだ本を共有したい」など、本そのものではなく、本から広がる世界や人とのつながりを求める意見が目立った。単発のイベントだけでなく、調べ学習支援、読書コミュニティなど市民同士の関係性が育まれるような活動ができる枠組みを提供することが求められる。

■ 5. 起業、副業の支援

起業支援、副業支援などを求める意見も多く上がった。コロナ以降、働き方の価値観や勤務方法も大きく変わっている。個人で何かを始めたいが、相談することができないなどの潜在ニーズがあると考えられる。門真市内の他の機関との役割分担を確認し、検討が必要である。

■ 6. 各階に貸しスペース

「小グループでの学習スペース」「工作室」「ボランティアルーム」「クラブ活動の発表の場」など様々な貸しスペースのニーズがあった。これらの意見を踏まえ、2階に文化会館機能がある程度集約する予定としていた当初プランから、1階は賑わいや発表向け、3階は学習や打ち合わせ用など、各階に貸しスペースを設けるプランへの変更を検討する必要がある。

■ 7. 体験型のキッズサービス

キッズスペースへの意見では、子どもと学べるイベントやお仕事体験、料理教室などの意見があがった。資料の提供に留まらず、体験型のキッズサービスが求められている。また、イベント時に子どもたちを見守る体制についても確保が求められる。

■ 8. 屋上庭園での新たなアイデア

子どもたちから多く出ていたのが、「屋上で天体観測したい」などのイベント的なニーズと滑り台など遊具スペースの意見である。現計画でも屋上庭園と遊具スペースは配置されているが、ここでイベントもできるようなスペースの確保が必要であると考えられる。また、動物や生物とのふれあいを希望する意見もあったため、管理面を含めて、導入可能か検討が必要である。

■ 9. 駐輪場や駐車場の台数や料金の検討

駐輪場や駐車場が必要という声はいくつか意見が出た。一方、まちづくりや環境配慮の観点から、車での来館を抑制すべきという考え方もある。自転車については、市民の主な交通手段となっており、古川橋駅も近いことから、多くの利用が想定される。敷地面積に限りがある中で、駐輪場、駐車場に充てるキャパシティをどの程度みるのか、検討が必要である。

■ 10. バリアフリー細部の利用者目線

今回は、視覚・聴覚障がいをお持ちの参加者から、「エレベーターのドアが透明のほうがよい」「エスカレーターの降り口が光るとよい」「床のサインが分かりやすいので、入れた方がよい」など建物に反映すべき細やかな意見が上がった。また、「音声案内があるとよい」という意見も多かった。設備の導入、仕様を決める際に参考にする必要がある。

■ 11. バリアフリー対応と空間デザインの両立

視覚障がいをお持ちの参加者から多く上がったのが、「段差の配色への配慮」である。その中から「虹色の階段がよいのではないか？」という発想の展開があった。バリアフリー対応と空間デザインを両立したアイデアであったが、このような視点での建築設計を検討する必要がある。

【付録】 模造紙写真

【付録】 ふせん紙写真



(仮称) 門真市立生涯学習複合施設整備に係る
市民ワークショップ 報告書

令和3年(2021年)9月発行

発行 門真市

〒571-8585 大阪府門真市中町1番1号

TEL : 06-6902-1231

編集 門真市市民文化部生涯学習課・図書館